

環境デザインに関する国際教育プログラムの構築について (その2)

二つのワークショップの比較考察

INVESTIGATION FOR INTERNATIONAL EDUCATION PROGRAMS IN THE FIELD OF ENVIRONMENTAL DESIGN (PART 2)

A Comparative Analysis of Two Workshops

川北 健雄 デザイン学部環境・建築デザイン学科 教授

岡村 光浩 基礎教育センター 准教授

長濱 伸貴 デザイン学部環境・建築デザイン学科 准教授

Takeo KAWAKITA Department of Environmental Design, School of Design, Professor

Mitsuhiro OKAMURA Center for Liberal Arts, Associate Professor

Nobutaka NAGAHAMA Department of Environmental Design, School of Design, Associate Professor

要旨

本研究は、神戸芸術工科大学紀要「芸術工学 2013」に掲載した「環境デザインに関する国際教育プログラムの構築について」の継続研究であり、本稿では前稿で取り上げた活動以降の 2013 年度に実施した内容について報告する。

本研究で注目しているのは、環境デザイン分野における現地集中開催型の国際ワークショップである。2013 年度は 2012 年度に引き続き、5 月にイタリアのサルデーニャで開催された LandWorks に参加し、インスタレーションを現地で実際に制作することを特色とするこのワークショップ特有の運営面での工夫等に関して、さらに詳細な情報収集を行った。また、9 月にフランスのノルマンディー地方で開催された EMiLA (European Masters in Landscape Architecture) サマースクールのワークショップに参加し、より広域的な課題への取り組み手法と、国が異なる 5 大学の共通プログラムという、教育の国際化を考える上でたいへん興味深い教育制度の仕組みについて情報収集した。

本稿では、これら 2 つのワークショップの概要について説明した後、実施運営面および教育制度面という 2 つの観点からの比較考察を行い、両者の相違点を明確にした上で、国際ワークショップの企画運営、ならびに、それを教育プログラムに組み入れる上での、主要な検討項目について整理する。

Summary

This paper further develops the research topic discussed in "Investigation for International Education Programs in the Field of Environmental Design" published in 2013 on this Bulletin of Kobe Design University.

During the academic year 2013, we participated in two international workshops: LandWorks Sardina in Italy, and the workshop of EMiLA (European Masters in Landscape Architecture) Summer School held in France. While the LandWorks focus on the realization of on-site projects, the EMiLA workshop deals with the problems of wider areas. The unique educational system of EMiLA as the common program of 5 schools from different countries in Europe is also investigated.

In this paper, after the explanation of the two workshops mentioned above, a comparative analysis is made from the viewpoints of the administration and the relation to the educational systems. The differences of the two workshops provide a range of possibilities regarding the organization of similar international workshops and the incorporation of them into the existing educational systems.

1) LandWorks Sardinia 2013

LandWorks は 10 日間程度の集中作業を通して、ランドスケープに関連したインスタレーションを現地で制作することを特色とする国際ワークショップである。2011 年に開始され、当初の 2 年間はサルデーニャ島南西部のモンテヴェッキオとイングルトスという 2 つの村を中心とする廃坑跡の諸施設が多く残るエリアで開催されたが、2013 年はサルデーニャ島の北西に位置するマッダレーナ諸島のカプレラ島へと場所を移動した。

ここには、19 世紀末に作られた軍事拠点の遺構がいくつも残っている。それらが海岸の地形と一体になって形成する景観の特性を読み取るとともに、生態学的な見地からも砂浜の地形や植生に関する分析を行って、そこから導きだされたいくつかの視点を、アートインスタレーションの形で表現する作業が行われた。

本学からは 2 名の大学院生が参加して、ランドスケープの特性分析からインスタレーションの制作に至るまでの一連の作業を経験した。また、最終講評会には、本学の教員 1 名がゲストクリティックとして参加した¹⁾。

2013 年の LandWorks では 7 人の専門家が、インスタレーションを現地で制作する学生チームのリーダー役を務めた。学生たちはワークショップ開始時に各専門家が行うプレゼンテーションの内容を見て、それぞれの希望に沿う形で、各専門家が担当する 8~9 名程度ずつのチームに分かれて作業を行う。学生たちがフィールドワークを通して気づいた事柄やアイデアが制作に反映されるのは当然だが、それらを最終的に質の高い作品としてまとめあげることができるかどうかは、リーダー役の専門家の力量にも大きく依存する。

LandWorks は、現地でのインスタレーション制作という実作業を伴うため、様々な資材や道具の調達と運搬、ならびに宿舎から制作現場への参加者の輸送も、ワークショップを成功させるための重要な要因である。主催者側では、そのために資材や車両調達のための予算を確保し、現地の自治体からもそれらの調達のための支援を受けている。補助員として配置されている関係大学の大学院生等が果たす最も重要な役割のひとつも、上記のような運搬や調達の

業務であった。

実際のランドスケープの中に身を置いて制作を行うという LandWorks の手法は、大学のスタジオの中では不可能な、身体的な空間経験に直接結びついた発見的なデザインの方法を追求する意味で、たいへん有意義なものである。その一方で、つくられるのはアートインスタレーションであるため、いくら優れた作品であっても、短期間のうちに消えてしまわざるを得ない。そのため、主催者側は制作された作品の記録も重視しており、プロの手による多くの写真や映像をウェブサイトに掲載すると共に、Domus のような専門誌にも記事を掲載して、情報発信を行っている。開催場所を少しずつ変化させながら、インスタレーションという共通の手法を用いて、それぞれの場所特有のランドスケープの価値の再発見を行った結果を記録に保存しつつ発信し、その積み重ねを地域全体の大きな創造力へとつなげることを意図しているのである。



写真1 インスタレーションの例 (Chris Phongphit チームの作品)

2) EMI LA サマースクール 2013

EMiLA (European Masters in Landscape Architecture) は、ランドスケープデザイン分野におけるヨーロッパの主要な 5 大学²⁾ が共同で運営する修士レベルの教育プログラムである。EMiLA サマースクールは、その 2 年間の教育プログラムに組み込まれた、1 年目と 2 年目の間の夏に実施される約 10 日間の集中ワークショップである。2009 年から毎年実施され、2013 年は ENSP (École Nationale Supérieure de Paysage, Versailles、国立ランドスケープ大学、ヴェルサイユ校) がホスト校となって、Haute Normandie (オート・ノルマンディー)

地方を対象地として開催された。EMiLAに加盟する5大学の他、日本から神戸芸術工科大学³⁾、オーストラリアからRMIT (Royal Melbourne Institute of Technology、ロイヤルメルボルン工科大学)、中国から北京大学の3校が、EU域外からの招待校として参加した。

2013年のサマースクールのテーマは、「Energy Scapes in a cultural landscape (文化的景観とエネルギー)」であった。対象地はHaute Normandie地方のセヌ川沿いから台地をまたいでイギリス海峡に面する海岸までの南北約50kmにおよぶ広大なエリアである。風力発電やバイオマス発電の拡大がランドスケープに及ぼす影響を考察し、同時に生態系に対する配慮や文化的な景観の保全等について考え、将来に向けての、のぞましいランドスケープのあり方を提案することが求められた。

サマースクールの前半は、バスで移動しながらのフィールドトリップである。初日はENSPで専門家による講義を受けた後、ノルマンディー地方へ移動した。2日目～4日目は現地に滞在して、サマースクールのテーマに関わるいくつかの重要な場所を訪れた。セヌ川下流のRouenからLe Havreの間には川の蛇行が生み出した独特な地形が広がっており、一帯はBoucles de la Seineという名称の自然公園に指定されている。ここでは、様々な視点からセヌ川を観察すると共に、公園の管理運営施設を訪れて専門家の講義を受けた。セヌ川と海岸部との間の台地状のエリアには、「Clos Masure (クロ・マシュール)」と呼ばれる、この地方独特の樹林で囲まれた伝統的な農園の類型が点在しているが、農業人口の減少と共にそれらの多くが消失しつつある。これらの課題について行政関係者から説明を受けると共に、いくつかの事例を訪れて農家や住民の方々に直接お話を伺った。最後に、海岸部を訪れ、その自然特性を把握すると同時に、原子力発電所や風力発電施設を訪れて、景観に大きな影響を与えるいくつかの要素についての理解を深めた。

学生たちは、フィールドトリップの間から、宿舎となっているユースホステルでチーム毎に景観分析の作業を進め、5日目にヴェルサイユへ戻った後、中間発表を行った。そして、6日目～8日目で集中的に作業してチーム毎の提

案をとりまとめ、9日目にゲストクリティックを招いての最終講評会を行った。最終日の10日目は、それらの展示と、EMiLA全体の公式行事に当てられた。



写真2 EMiLA ワークショップ最終講評会の様子

3) 運営および教育制度面からの比較考察

2つの国際ワークショップの主な特徴を比較してまとめたのが表1である。まず、ワークショップの運営方法について考察すると、現在、LandWorksの運営は、非営利団体としてのLandWorksが行っている。一方、EMiLAのサマースクールは、加盟5大学が順番にホスト校を担当して運営している。2013年のEMiLAサマースクールでは、ワークショップの宿泊や食事の手配、運営と会計業務の一部が、非営利団体としてのLandWorksに委託された。ワークショップの運営には、学術面や教育面以外の、宿舎や食事の手配、会計処理といった多くの業務が伴う。それらのコストを削減し、外部委託等うまく利用して教員等の負担を軽減することも、ワークショップを成功させる上での大きな要因だと考えられる。

次に、既存の教育制度とこれらのワークショップとの関係を考察する。LandWorksは、イタリア Sassari 大学 MMLU (Master in Mediterranean Landscape Urbanism) の Stefan Tischer 教授⁴⁾ が始めたワークショップであるが、同大学においてもカリキュラム上はオプションな位置づけであり、他大学の学生も自由に参加できる。ヨーロッパ単位互換制度に加入している大学の学生であれば、このワークショップで3単位を取得することができ、大学の特定の教育プログラムからの独立性は高い。一方、EMiLAのサマースクールは、加盟5大学が共同で運営し

	ワークショップの名称	Landworks Sardinia 2013	EMiLA Summer School 2013
開催概要	主催者	The Landworks no profit Cultural Assosiation および Sassari 大学MMLU (Master in Mediterranean Landscape Urbanism)	EMiLA (2013年のホスト校: ENSP (École Nationale Supérieure du Paysage))
	大きなテーマ	自然環境・文化遺産としてのランドスケープの価値を再発見し、新たな可能性を見出すこと。	文化的なランドスケープの変遷に関する問題に焦点を当て、そのデザインの可能性を考究する。
	開催歴	2011年より毎年	2009年より毎年
	開催地	Sardiniaと近傍の島々。2013年の開催地はMaddalena諸島のCaprera島。	EMiLAメンバーの5大学が順番にホスト校を担当し、それぞれの国内で開催。2013年の課題対象地はHaute-Normandie地方。
参加内容	参加対象学生	自由参加。大学院生を主とするが、学部生も参加可能(事前にCVとポートフォリオ提出)	EMiLA修士課程の履修学生および招待校の大学院生
	参加学生人数	約60人	27人
	指導者人数	招待講師(チームリーダー)7人	参加校の教員14人
	実施内容	招待講師によるレクチャーおよび現地でのインスタレーションの制作と講評会	対象地見学ツアーと専門家による講義およびスタジオでの作業と講評会
	制作物	ランドスケープ・インスタレーション	図面パネルと模型
教育制度	チーム構成	(学生8~9人+講師1人) x7チーム	(学生4~5人+教員2~3人) x6チーム
	既存の教育制度との関係	MMLUではオプションの授業として位置づけ	マスターコースのカリキュラムの一部として実施
	ヨーロッパ単位互換制度(ETSC)における単位数	3単位	5単位(事前学習とレポートを含む)
	制度上の授業時間	100時間	80時間(ツアーを含む)および60時間の事前学習とレポート
資金と費用	主な資金源(金銭以外の支援を含む)	参加費、自治体の支援、その他協力団体の支援	EMiLAに加盟する各大学の負担およびEUからの助成
	参加費	1人700ユーロ(宿泊費、食費込)	EMiLAメンバーは無料。EMiLA以外の参加者は学生700ユーロ、教員1,000ユーロ(宿泊費、食費込)
	主な費用	宿泊費、食費、招待講師の交通費と謝金、インスタレーションの材料費、運送費、その他諸経費	宿泊費と食費、専門家への謝金と交通費、その他諸経費

表1 二つのワークショップの比較表

ている交換留学プログラム⁵⁾の一部であり、参加できるのはこのプログラムを履修している学生に限られる。また、EMiLAの場合、Summer Schoolで5単位を取得するには、ワークショップでの80時間の参加以外に、60時間の事前学習とレポートの提出が必要であり、正規のカリキュラム全体の中に位置づけられている。

以上のように、LandWorksとEMiLAのワークショップは、特定の地域におけるランドスケープの問題を国際的なチームによる短期集中型の現地作業を通して考えるという共通性を有しているが、より具体的なテーマや作業内容、実施運営の方法や教育制度といった面では、それぞれが異なる特色を有している。これらの調査結果は、環境デザインにおける新たな教育プログラムを構築する上での有用な知見を提供するものであり、引き続き国際的なネットワークを強化しつつ、今後の展開へと繋げていきたい。

註

- 参加学生：総合デザイン専攻修士課程1年(当時)井垣量子、同柴田壘斗。参加教員：川北健雄。
- Amsterdam School of the Arts; Amsterdam Academy of Architecture、Universitat Politècnica de Catalunya、Edinburgh College of Art、Leibniz Universität Hannover、École Nationale Supérieure de Paysage Versailles/Marseilleの5校。

3) 参加学生：大学院総合デザイン専攻修士課程2年(当時)王揚、博士課程1年(当時)Khuplianlam TUNGNUNG。参加教員：川北健雄(ワークショップのチーム指導を担当)。

4) StefanTischer教授は2012年からENSP(École Nationale Supérieure de Paysage, Versailles)でも教授を務めている。

5) EMiLAに加盟する各校の修士課程と交換留学の期間との関係は下の図のようになっている。図は、大学ごとに必要な年数が異なる修士課程のうちの、どの部分をEMiLAの共通カリキュラムの2年間とするかを示している。EMiLAプログラムの履修学生は、この2年間のうちの2つの学期を、異なる2つの留学先で過ごす。また、各大学における授業に加えて、共通科目としてのサマースクールとE-learningが用意されている。なお、現時点ではEMiLA共通の独自の修士号が存在するわけではなく、所定の課程修了時には、学生が所属する大学の制度に従って、それぞれの修士号が与えられる。

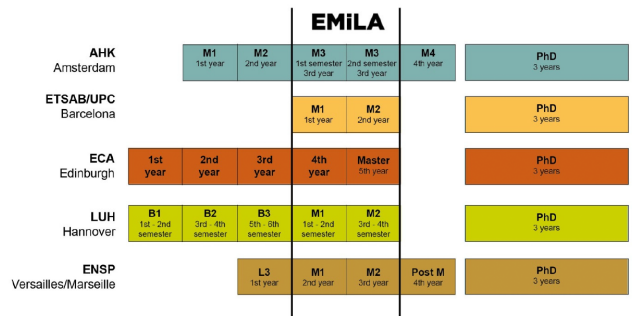


図1 EMiLAの履修期間 (EMiLA Pocket Guide より)